

令和3年度 島根県学力調査結果及び分析（松江市立第三中学校）

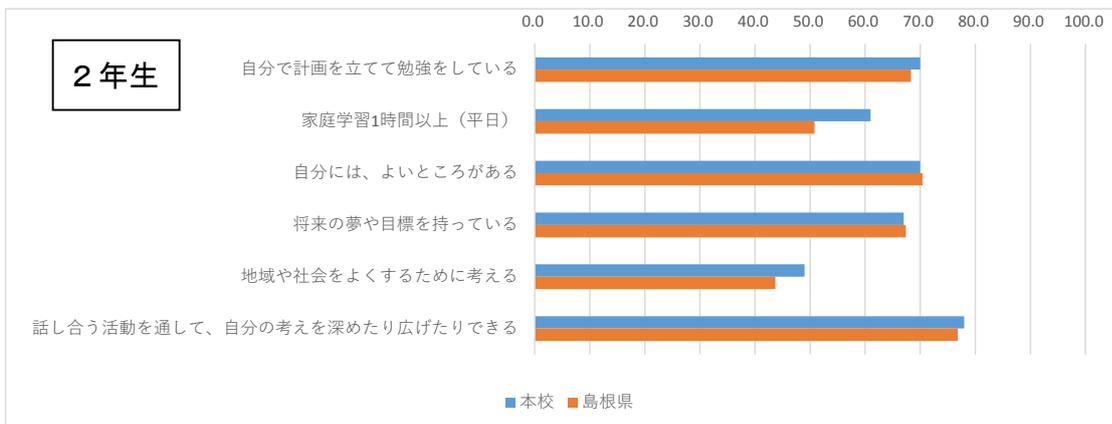
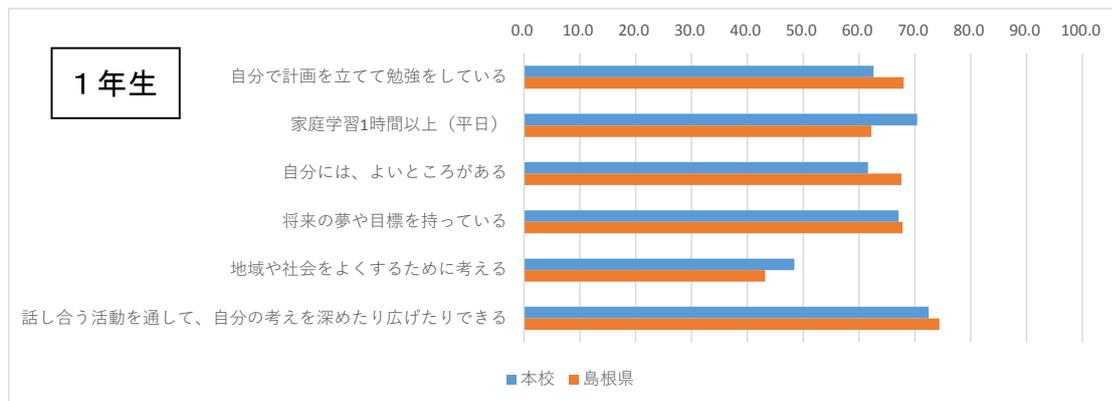
(1) 学力調査結果から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

1 年 国 語	○辞書を引いたり、覚えた漢字を使ったりすることが身につけており、漢字や言葉の使い方に関する正答率が高くなっている。 ●質問する生徒の割合が低く、粘り強く課題に取り組む姿勢の弱さがうかがえる。	2 年 国 語	○多くの領域で目標値を達成している。特に漢字の読み書きや言語事項等、知識・技能の観点の正答率が高く、基礎学力の定着がうかがえる。 ●書く領域の正答率が低い。また、授業で質問する生徒の割合が低く、主体的に学習に取り組む姿勢も課題である。
1 年 数 学	○比例・反比例の式やグラフは目標値を達成することができている。 ●すべての項目で目標値を達成できなかった。学力の二極化が原因として考えられるため、生徒にあった指導を考えていくことが課題である。	2 年 数 学	○図形領域の正答率は目標値に近い。 ●すべての項目で目標値を達成できなかった。正規分布と比べて、正答率10%以上30%未満の相対度数が高く、生徒に対応した指導の工夫が必要である。
1 年 英 語	○リスニング、読み取りの問題は目標値に近い正答率である。 ●書くことの正答率が低い。単語の並べかえ、場面に応じた英作文等が課題である。また、英語の宿題をきちんとしている生徒の割合が低いことも課題である。	2 年 英 語	○リスニングは比較的目標値に近い正答率である。 ●読むこと、書くことの正答率が低い。長文を一定の時間内で読み取ること、まとまった内容での英作文等が課題である。わからないことを質問するなど、主体的な取り組みにも課題がある。

(2) 生活意識調査から見られた成果と課題(○:成果 ●:課題)

1 年	○参考書や問題集などを使って勉強している生徒の割合が県平均より高く、メディアに接する時間は県平均より少ない。家庭での自主学習の時間が確保され、参考書や問題集を使っての家庭学習が行われていると考えられる。 ●県平均よりICT機器の利用率は低い。今後、授業展開で学習内容の理解を深めるためにタブレット等を効果的に活用していく。	2 年	○家庭学習の時間は県平均より割合が高い。集中した取組がうかがえ、参考書や問題集を利用した勉強も充実している。 ○平日のメディア・スマートフォンの接触時間は県平均より少ない。 ●県平均よりICT機器の利用率は低い。今後、1年生と同様にタブレット等を効果的に授業で活用していく。
--------	--	--------	---

(3) 意識調査(教育委員会として注目している項目のうち、全国学力・学習状況調査と同様の質問項目を挙げています)



【受検者数】 1年生 91名 2年生 100名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。